

吾々大島製鋼所争議團は大川平三郎の市場閉鎖絶対反対
首切絶対反対

債権値下げ絶対反対の要求書を出して平三郎に告げ、早や六十金有日に存るものは吾々の生計確
保の爲に存る要である然るに大川平三郎は吾々に対して何等感意ある回答の一旦すらせず吾等
の家族千二百名の生死の問題に對しても平然たる状態に對しては吾々の飽死半考の爲に其の者
後に大川平三郎の軍方浪沢宗一侯が幕と有り大川平三郎と共謀して吾々を苦しめ居る様にも及ぶ
吾々は奮然として対抗する者である。大川の武州銀行と浪沢の第一銀行と言ふ大川平三郎あり
私利公利に於てむしろ大川を以て連名に争議解決に努力すべきに、はるが陰に於ての行爲
あるに於ては吾々としても貴殿に對し決然たるを得ない貴殿の真意ある処を固く大川を
ある事やまに於ては連名に争議解決の爲めに努力すべき事を附言する

昭和五年十月十一日

大島製鋼所争議團

印

浪澤宗一殿

芳秋第三九五六號

昭和五年十一月四日

警視總監丸山鶴吉

内務大臣安達謙藏殿

社會局長官殿

各 德 府 縣 長 官 殿

八大産存各

株式会社大島製鋼所争議第貳ニ関スル件 第二十七報

要旨

- (1) 争議团长倉藤常太郎指導者事務所を快トマス十月三十日拜佳ルニヨリ内社中ナリ
- (2) 會社態度強硬十九日要請額二十万圓ヲ十二の削減額を伴中ナルニ會社依然拒絶之ヲ針ナリ
- (3) 争議不参加工約百名、車路ト交際中内視...

標記争議其後ノ状況左記ノ通

記

5. 11. 6
1876